

エネルギーシティつちうら

武若苑子(班長) 越川知紘(副班長) 大山倫正 羽場一真 TA: 赤澤邦夫

1. 概要

土浦市は、茨城県南部に位置する都市で人口 141,896 人、世帯数 58,932 世帯（平成 27 年 1 月 1 日現在）、面積が約 122.99 km²である。地形的には北部に新治台地、南部に稲敷台地があり、その 2 つの台地に囲まれた桜川低地、さらに、霞ヶ浦沿岸部からなる都市である。かつては城下町、水戸街道の宿場町として発展し、江戸時代は霞ヶ浦を利用した水運の拠点地、また、戦時中は海軍のまちとして栄えた。しかし、現在の土浦市は人口減少や高齢化などの課題を抱えている。

2. 全体構想

土浦市の現状として、意欲的に活動している人々がいる一方で、活動したいけれど活動できる環境がないということが原因で意欲的に活動できていない人々がいる。活動できる環境を整え、意欲的に活動する人々をもっと増やし、土浦をさらに元気にしたいと考えた。

そこで、目標都市像として「エネルギーシティなまち」の実現を目指す。私たちは「エネルギーシティ」を「人々がより意欲的に活動すること」と定義した。

「エネルギーシティなまち」とは、活動ができる環境を整えることで、人々がより意欲的に活動できるまちのことである。また、都市像実現のための構想として、図 1 に 5 つの部門別目標を示す。

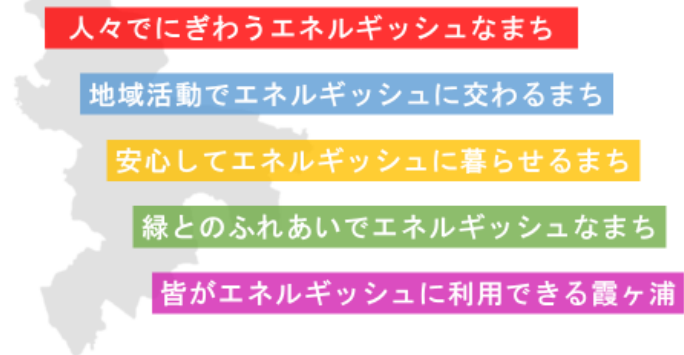


図 1: 部門別目標

3. 部門別構想

全体構想で示した 5 つの部門別目標を達成し、目標都市像の「エネルギーシティなまち」を実現させるために、部門別の目標に基づいて重点的に進める計画を示す。

3-1 人々でにぎわうエネルギーシティなまち

3-1-1 現状

荒川沖周辺において、さんばるの廃業などの空き店舗増加問題が起きている。また、神立駅周辺の道路沿いにおける空き店舗など、市内において空き店舗問題があることがうかがえる。

中心市街地における空き店舗の数は、図 2 より近年増加傾向である。それにより、景観が損なわれるだけでなく、商業空間としての連続性がなくなり魅力が失われつつある。また、歩行者通行量を見てみると、図 3 より近年減少傾向にあることがわかる。これは、郊外に大規模商業施設が立地したことや、モータリゼーションが原因であると考えられる。

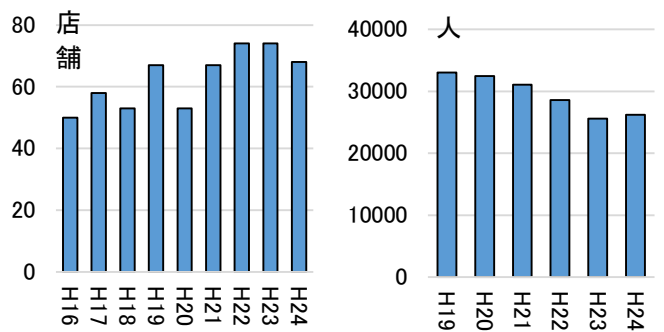


図 2: 空き店舗状況

図 3: 歩行者交通量調査結果

3-1-2 構想

土浦市において商業を活性化させ、にぎわいを創出することで、「人々でにぎわうエネルギーシティなまち」を目指す。それを実現させるために、空き店舗にテナントを誘致したうえで、人々が足を運びたくなるように促す。

土浦の顔である中心市街地において重点的に計画を行う。中心市街地には新市役所と新図書館が移転する予定である。その影響により、表 1 に示されるように、新市役所と新図書館により、合計 5200~6200 人/日が中心市街地に流入すると予想される。そこで、この流入人口をいかに中心市街地に回遊させることが、中心市街地のにぎわいにつながると思った。

表 1: 中心市街地の予想流入増加人数

場所	予想増加人数
市役所（うち職員）	2200 人（700 人）
図書館の利用者	3000~4000 人
合計	5200~6200 人

3-1-3 重点計画

「人々でにぎわうエネルギーシティなまち」を目指す計画として、中心市街地において 2 つの提案を行う。1 つ目は中心市街地における、空き店舗へのテナント配置を考えることである。具体的に、モール 505 に飲食店を配置した時の中心市街地における空間イメージを図 4 に示す。これは中心市街地に新たに訪れる人々の需要があると考えられる。

2 つ目は店舗に訪れたいような提案の実施である。具体的には既存の歩数マイレージ制度の事業拡大である。既存の歩数マイレージは、会費を 1000 円払うことにより、毎日の平均歩数の 10 歩を 1 円と換算し、商品券をもらえるという仕組みである。なお、高齢者が利用者の大半を占めていることや、利用者数に制限があることが課題である。歩数計を持つことで、歩く動機付けになることから、健康にもつながる。そこで、土浦スポーツ運動倶楽部でも提案しているように、アプリ開発による若者利用を促す提案を「つちマイル（参る）」と題して行う。アプリを用いることで、多数の人が気軽に利用できることが大きな利点である。事業のスキームを図 5 に示す。歩数マイレージでは会員が出資していたことに対し、今回の出資は広告掲載を希望する店が行うものとする。また、アプリ機能として商品券への換金、歩いたルートの確認、ルートによる歩数の重みづけ変更等を行う。以上の提案を行うことにより、「人々でにぎわうエネルギーシティなまち」の実現に近づく。



図 4：中心市街地の空間のイメージ

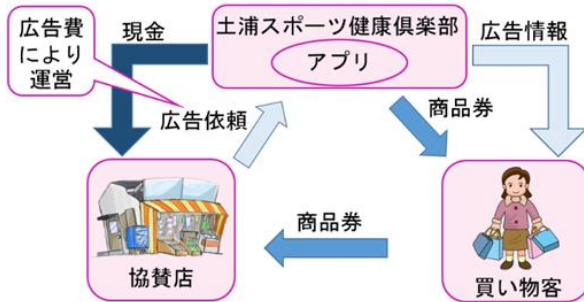


図 5：つちマイルにおける事業スキーム

3-2 地域活動でエネルギッシュに交わるまち

3-2-1 現状

土浦市の一人当たりの公民館のサークル登録状況を見ると、図6のように少ないことがうかがえる。特に全体と比較して上大津公民館は少ない。図7より音楽系・文化系・教養系の活動団体は特に少ない。このことから地域活動を通じた住人同士の交わりが減少や地域の活力の低下が生じることが考えられる。

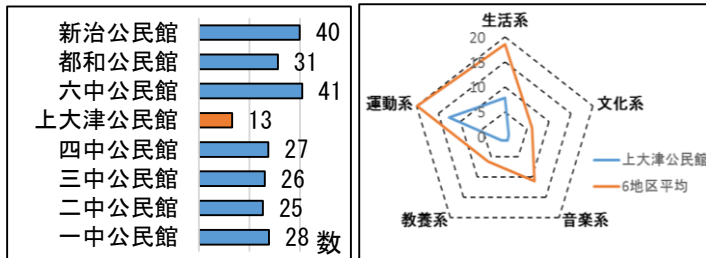


図 6：一人当たり登録状況

図 7：種類別活動団体

3-2-2 構想

現状を踏まえて、「地域活動でエネルギッシュに交わるまち」という構想を掲げる。市民が地域活動を行うことを促進するために、①地域活動のための活動場所整備、②市民への団体情報やイベント等の情報拡散の2つの環境を整える。そして、活動を通じたエネルギッシュな交わりを創出する。

3-2-3 重点計画

おおつ野自治会への問い合わせや上大津公民館へのヒアリングの結果から自治会加入率は100%である。一方で、新しく居住してきた人々と元々住んでいる人々との交流という側面では、まだ十分に交流がなされていないことが分かった。さらに、図6より、神立・おおつ野地区内での地域活動は少ない。そこで、神立・おおつ野地区において重点的に計画を行う。具体的な提案として以下の①、②を行った上で地域が交わるための仕組みを提案する。

①音楽・運動拠点のための防音室整備（図8）

集会所を活用して、大きな音が出るダンス、演劇活動や合唱、バンド活動等の音楽やエクササイズ等の活動のために防音壁の設置、また、ダンスなどの活動のために移動式

の姿見を設置する。なお、集会所としての機能も残すことで多様な利用選択が行えるようにする。

②地域情報サイトの設置

地域の不審者情報や災害情報など、安心安全な暮らしのためのコンテンツを兼ね備えたものである。また、ここに市民掲示板としての機能を備えてサークル活動の募集やイベントの告知を行うことが出来る。

上記2つを組み合わせ、音楽で笑顔をつくる「音友プラン」を行う。地域の活動拠点として高齢者福祉施設・協同病院などと提携を行うことで、高齢者や病院利用者を元気づけることを目指す。また、施設のイベントにおける団体の誘致の際は公民館を経由する。公民館は地域情報サイトを用いて、団体にイベント告知をして参加団体を募る。これにより、様々な団体への活動の場の提供、また、施設の負担が減ることによって気軽にイベント誘致ができる上に様々な種類の団体に触れられる環境作りをすることを目的としている。



図 8：防音室のイメージ

表 2：整備費用

音楽施設整備		
上大津公民館	集会室面積(㎡)	155
上大津公民館	集会室面積(坪)	46.97
防音フローリング整備費用(円/㎡)		15000
防音壁整備費用(円/坪)		400000
姿鏡(W914×H1828)×8(円)		516672
総額		¥21,706,663

3-3 安心してエネルギッシュに暮らせるまち

3-3-1 現状

茨城県警察によると、平成26年の土浦市の1,000人当たり犯罪認知件数は18.5件であり、茨城県の平均の12件である。これは茨城県内の市町村別で、最も高く決して好ましい状況であるとはいえない。特に、図9より荒川沖地区は犯罪率が高く、茨城県平均、全国平均と比べても高い犯罪率である。土浦市地区別人口を見ると、荒川沖地区において、子供が多いことがわかった。

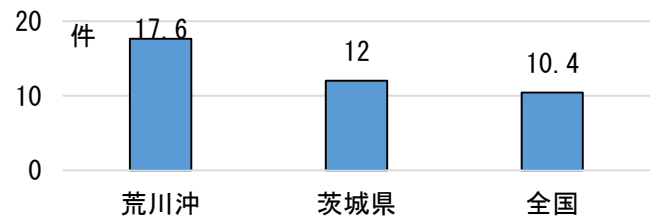


図 9：1000人当たり犯罪発生件数

3-3-2 構想

構想として「安心してエネルギッシュに暮らせるまち」を掲げる。子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らせるまちを目指す。目標を達成するために、「コミュニティ道路整備」と「つちレポ」アプリ政策を実施する。特に犯罪率が高く、子供が多いことから、安心・安全が要求される荒川沖地区を対象として考える。

3-3-3 重点計画

コミュニティ道路の目的は2つある。1つ目は、車と歩行者の共存を実現させ、市民が安心して歩ける道路を設けることである。具体的には、歩行者の安全を確保するために自動車が速度を落とすように花壇を設置することである。2つ目は、道路の植木づくりを通し、市民の交流が生まれることである。土浦市で盛んに行われている「花いっぱい運動」を活用し、市民による植木作りを進めていく。コミュニティ道路のイメージを、図10に示す。

「つちレポ」というスマホアプリを開発する。土浦市に住む住民が一番気づける町の問題を「つちレポ」アプリを通して行政や市民に共有する。それに対して行政が改善策をとり、市民参加型、市民の声を反映させながら人々が安心して暮らせるまちにつながる。



図10：コミュニティ道路のイメージ

3-4 緑とのふれあいでエネルギッシュなまち

3-4-1 現状

土浦市内では新治地区、霞ヶ浦周辺において農業が盛んである。土浦市の農業の課題として耕作放棄地の存在と高齢化が挙げられる。土浦市の耕作放棄地について、土浦市「土浦市耕作放棄地解消計画（平成22年）」によると、図11に示される農用地区域における耕作放棄地のうち、土浦市全体の約5割を新治地区が占めている。図12に示される耕作放棄地となった理由としては、高齢化、耕作不便、人手不足といった理由が挙げられる。

農業が盛んな新治地区において、表3に示される平成20年度新治中学校地区における耕作放棄地面積を見ると、草刈り等で直ちに耕作が可能な農地が存在する。また、土浦市農業委員会「貸付等希望農地一覧（平成26年12月16日掲載）」によると、農地所有者が貸付等の希望している人がある。ゆえに、新治地区において活用が可能な農地が存在する。

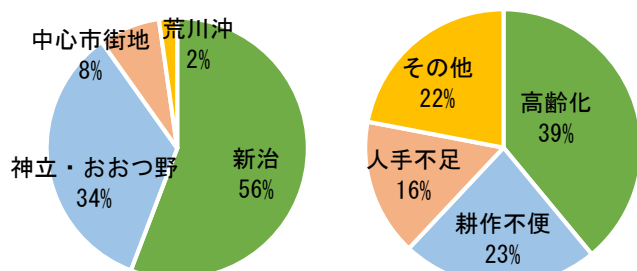


図11：農用地区域における耕作放棄地の割合（土浦市全体 191.1ha）

図12：耕作放棄地となった理由（複数回答あり）

表3：新治中学校地区における耕作放棄地面積（H.20）

草刈り等で直ちに耕作が可能な農地	70.1ha
草刈り等では耕作できないが条件整備で利用可能な農地	47.2ha

3-4-2 構想

構想として、土浦市の農業や自然といった「緑とふれあい」でエネルギッシュなまちの実現を目指す。緑にふれあい、人々がエネルギッシュに活動できる場として市民農園を提案する。

現在、土浦市が運営している市民農園の利用状況・利用者・設備に関して、農林水産課にヒアリング調査を行った。表4に示されるヒアリング調査の結果より、意欲的に市民や農家が活動できる環境が整えられていないと感じられた。

表4：市民農園に関するヒアリング調査

日付	2015年1月28日（水）
対象	土浦市農林水産課振興係様
内容	①市が運営の5つの市民農園の利用率が高い ②農園で農業指導は行われていない（※中村西根では数回、有機栽培の指導が行われている） ③行政主体で交流を促す行事は行われていない ④農作業道具入れ・トイレ・駐車場等がある

3-4-3 重点計画

市民農園は図13に示されるように運営する。市民農園は管理組織が開設主体となって開設する。市民は管理組織に会員登録をして市民農園を利用することができる。市民農園として利用する農地は、農地を貸し付けたい農家から農地を提供していただく。管理組織は、農地を提供した農家に、使用料を支払うことで、市民農園において市民に農業指導や、農園に来られない市民がいる場合には栽培代行を行う。管理組織は提供された農地に応じて区画を設定する。また、市民農園で市民と農家の交流が促されるように、バーベキューや収穫祭といった交流会を開催する。市民は農作物の栽培、収穫、味わうといった一連の農業に関わる流れを通じて、農業に親しみ人々とふれあう。農家は農地を有効活用することができ、農業指導で市民と関わることで生きがいを感じる。新しい市民農園において、それぞれが意欲的に活動し、「緑とのふれあい」でエネルギッシュなまちの実現に近づく。

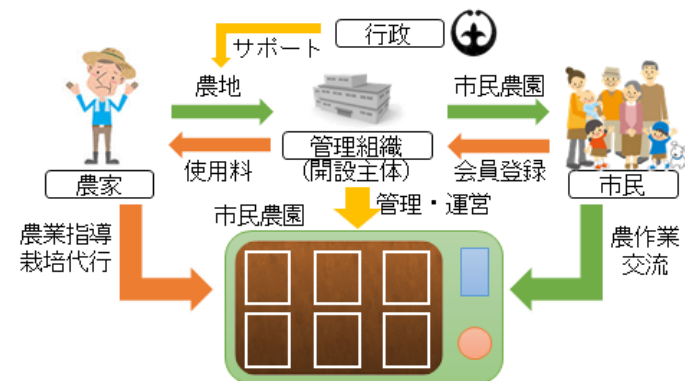


図13：市民農園の運営

3-5 皆がエネルギッシュに利用できる霞ヶ浦

3-5-1 現状

霞ヶ浦は湖の面積としては日本第2位であり、知名度も高い。また、ウィンドサーフィンやヨットなどの水上スポーツが盛んである。周辺には、川口運動公園・霞ヶ浦文化体育施設などのスポーツ施設が整備されている。湖の周囲に自転車道路が整備されている。さらに、観光・環境面でも整備を行っており、観光帆船・観光遊覧船などの観光船、ネイチャーセンターなど水生植物を保護する施設などがある。

3-5-2 構想

霞ヶ浦周辺には、スポーツ施設が多く立地していることから、市民から市外の人まで多くの人々がエネルギッシュに利用できる空間を整備する。2020年には東京オリンピックが開催される。また、2019年に茨城県で国民体育大会（国体）が開催される。1974年に国体が開催されたときは、ヨ

ットハーバーが競技の会場になっていたこともあり、水上スポーツも盛んであったことがうかがえる。そこで、既存のスポーツ設備を活かしながら、市民が日常的な運動で霞ヶ浦を利用できる提案をする。

3-5-3 重点計画

霞ヶ浦を皆に利用してもらうための、重点計画としてラクスマリーナ周辺での宿泊施設の建設を提案する。具体的には、図 14 の位置に図 15 に示すような施設を建設する。施設利用として1階部分をランナーやサイクリストのための休憩設備を設け、市民が日常的な軽い運動でも利用できる気楽な空間を創出する。周辺には陸上トラックがある点や、りんりんロードからのアクセスも良いため、休憩所の利用者数は多く見込まれる。また、2・3階の利用として宿泊設備を設け、市民のみならずスポーツ合宿・釣り人・観光客などをターゲットに集客を行う。

2019 年の国体では市内 3 か所の会場で競技が行われることになっている。また、そのうちの2か所が川口運動公園（軟式野球）・霞ヶ浦文化体育館（相撲）であり、いずれも霞ヶ浦周辺の会場が使用される。国体や 2020 年のオリンピックに向け、スポーツ合宿としての需要も伸びると考えられる。

このような宿泊施設を整備することで、軽い運動から激しい運動をする人のみではなく、観光客など様々な人が霞ヶ浦を利用できる。また、市民がより運動を行う提案として、「霞ヶ浦大運動会」の開催を行う。地区別対抗で行い、年齢関係なく様々な市民が参加できる。運動会を目標に運動を行う人の増加や、新たな種目への興味、また多世代間交流などのメリットがある。以上の2つの提案を行うことで、市民だけではなく「皆がエネルギッシュに利用できる霞ヶ浦」になると考える。



図 14：国体開催地および宿泊施設建設予定地

表 5：宿泊施設の整備費用

宿泊施設（宮城県リフレッシュプラザ参考） RC造3階（30室、100名収容、60年耐久と仮定）	
建築面積	850㎡
延べ床面積	1600㎡
用地面積（45m×38m）	1710㎡
費用	
土地取得費（3.85万円/㎡）	65835万円
建設費（27万円/㎡）	43200万円
維持管理費（建設費の4.5倍と仮定）	194400万円
総費用（60年間）	244183.5万円
利用想定（平成21年国民宿舎水郷参照）	
稼働日数	362日
利用者数	13445人
1日当たり利用者数	37人/日
宿泊費の想定	
必要な最低宿泊費	3026円/人



図 15：宿泊施設の完成イメージ

4. 総括

部門別目標に基づいて重点的に計画を進めることによって、活動できる環境を整えることで人々がより意欲的に活動できる。これにより、土浦市がより意欲的に活動する人が溢れ、目標都市像の「エネルギッシュなまち」を実現させる。

謝辞

ご協力いただいた皆様へ、心から感謝の気持ちとお礼を申し上げます。

- ・上大津公民館
- ・おおつ野自治会 大部様
- ・土浦市保健福祉部高齢福祉課高齢福祉係 加藤様、村山様
- ・土浦市農林水産課 酒井様、宮川様
- ・土浦市農林水産課振興係
- ・NPO 法人まちづくり活性化土浦 小林様
- ・土浦市新庁舎整備課 塚本様
- ・土浦市都市計画課 飯泉様
- ・土浦商工会議所 菅原様
- ・土浦市産業部商工観光課 中嶋様
- ・土浦スポーツ健康倶楽部 古徳様
- ・土浦市教育委員会スポーツ振興課 中根様
- ・平塚市中央公民館 社会教育主事 鶴田様
- ・ご協力いただいた土浦市民の皆様

参考

- ・土浦市 ホームページ
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/index.html>（2015.2.4 アクセス）
- ・土浦市「平成25年度統計つちうら」
- ・土浦市「土浦市中心市街地活性化基本計画（平成26年）」
http://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1395893268_doc_34_0.pdf（2015.2.4 アクセス）
- ・土浦市耕作放棄地対策協議会・土浦市「平成22年度土浦市耕作放棄地解消計画」
https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1269591701_doc_27.pdf（2015.1.28 アクセス）
- ・土浦市農業委員会「貸付等希望農地一覧（平成26年12月16日掲載）」
http://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1416443709_doc_51_0.pdf（2015.1.28 アクセス）
- ・愛知県・農業総合試験場「農業体験農園開設の手引き」
<http://www.pref.aichi.jp/cmsfiles/contents/0000067/67417/kaisetsutebiki1.pdf>（2015.2.1 アクセス）
- ・農林水産省「市民農園の整備が可能な補助事業等」
http://www.maff.go.jp/j/nousin/nougyou/simin_noen/s_kaisetu/pdf/26hojo.pdf（2015.2.1 アクセス）
- ・土浦市「都市と農村との交流事業（市民農園）」
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page000289.html>（2015.1.28 アクセス）
- ・土浦市「上大津公民館（上大津地区コミュニティセンター）」
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page000120.html>（2015.1.27 アクセス）
- ・グランディ・21 宮城県総合運動公園「リフレッシュプラザ」
http://www.mspf.jp/grande21/index.php?action=sisetu_shoukai_refresh（2015.2.4 アクセス）
- ・土浦警察署「土浦防犯ニュース平成27年第1号」
http://www.pref.ibaraki.jp/kenkei/station/tsuchiura/pdf/bohan_2701_01.pdf（2015.2.4 アクセス）
- ・警察庁「平成25年の犯罪情勢」
<https://www.npa.go.jp/toukei/seianki/h25hanzaizyousei.pdf>（2015.2.4 アクセス）
- ・茨城県警察「市町村別認知件数・犯罪率」
http://www.pref.ibaraki.jp/kenkei/a01_safety/statistics/shichoson.html（2015.2.4 アクセス）